

第2分科会 生活と福祉

テーマ 不登校の子どもの居場所+α

京都支部 川本真澄（企業組合もえぎ設計）

2023年の国の調査によると、小・中学校の不登校の児童数は299,000人（児童数の3.2%）過去最多となり増加傾向にある。こうしたことを背景に、保育園や認定子ども園を運営する法人のなかでも、子どもの居場所づくりに取り組まれる事例が増えてきたように思う。

しまもと里山認定子ども園は、大阪府三島郡島本町にあり、山裾の川沿いにあることから里山をイメージして木造的分棟で2020年に建てられた。翌年、理事長から不登校の子どもや貧困家庭の子どもの居場所事業の構想があり、隣地の空き家が改修利用可能かとの相談を受けた。築不祥の木造棟はかなり傷んでいたが魅力的、道路沿いに築50年のナショナルプレハブ住宅、2棟の間に水路と里道が走る。調整地域ということもあり、敷地条件のクリアと用途上のクリアにかなり手間取った。所有者も複数人にわたり土地取得にも時間を要したようだ。そんなこんなで2023年10月に「こどものいばしょ モザイク」と「おやこのはじまり はぐ」が開設された。



左：道路からの全景

手前にプレハブ棟はぐ
右奥に木造棟モザイク

右：モザイク南側から

屋根は金属板に葺替え
外壁は腰杉板張り
上部は漆喰塗り

下：配置図・平面図

敷地を流れる水路はそのま
まに、里道を道路側に移管

*本園と連続的に街並みを形成



配置・平面図

「もぎいく」は、小学生から中学生までの学校に行きづらくなっているこどもたちを受け止め、高校生の居場所としても利用できる。

HPよりー「何もしない」日もあっていい 無理にこなくてもいい 自分のペースで自分らしくいられる ルールは2つ・来たとき、帰るときは知らせる。・自由だけどひとの自由は邪魔しない。



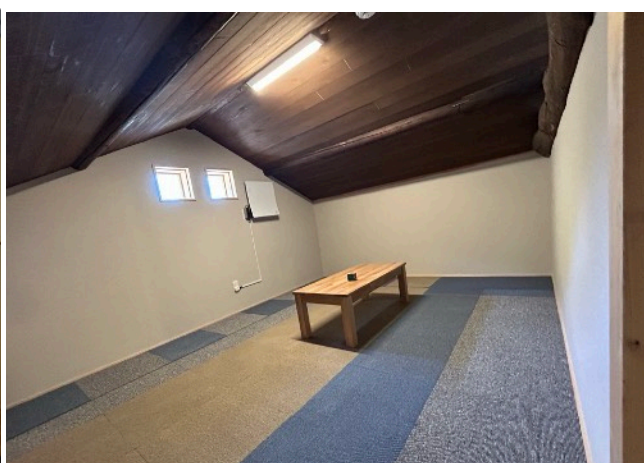
食堂 オープンキッチン子どもも使える高さに



アトリエには絵の具や段ボールなど材料がいっぱい



図書室・事務室 梯子を登ると隠れ家がある



ロフトが一番人気の隠れ家



和室と縁側は元の間取りのままに ごろごろできる



土間の作業場で竹を切ったりバーベキューしたり



水無瀬川から引かれた農業用水路が敷地を横切る



かなり荒れていたがみんな一目でその魅力に惹かれた



建て替えたほうが早いとせと大工さんに言われながら、丸太の屋根組を大事に残して元の力強さが蘇っていくのを実感

子どもの居場所+α

現在子どもたちは17人くらい来ているらしい。お気に入りの居場所や遊びを見つけて傷ついた羽根を休めているのだろう。夏にちょっと覗いたときは表の川での魚釣りの竿を製作していた。南の庭には池やら基地がつくられている途中だった。完成したのかな。

どうやら近所からいろんな大人もやってくるらしい。子どもたちに竹細工を指導してくれるひと、庭に花を植えに来てくれる人、畑を作ってみんなでさつま芋づくりを手伝ってくれる人……。どこからでも見えるし入れるし、声もかけやすい。

そもそも理事長のねらいは本園を建てる時からまちをつくることだった。いろんな人が出入りできる地域、老人や障害を持った人、誰でもが集まれる場所を作りたいとずっと考えている。なのでこの場所をどんどん使ってほしいと呼びかけている。しまもと町民交流プラザ「しまプラ」での利用も広がり、夏には「水無瀬川ホテルのつどい」が3日間、毎日50人ほど集まりカレーを食べてホテル鑑賞、発達障害を持つ当事者が企画する「おとなの発達カフェ」は定期的に行われている。この場所がいいのだそうだ。

人々の心地よい居場所になるには、条件がありそうだ。集まる場所がある、それは懐かしいとかあったかいとかいいなと思える場所、駄目！がない、手を出す余白がある、土や水や植物やどこか自然とつながっている…

